

公害資料館と公害当事者との関係性に関する研究

島崎 葉乃

現在公害は過去の事として扱われている。そのため十分に公害の教訓が伝えられ、活かされているとは言えない。今後、公害当事者がいなくなる中で公害を学ぶためには公害資料や公害資料館が重要になってくると考えた。

本研究では公害資料館について、公害資料を所蔵しており、アーカイブズ機能（資料の収集・整理・保存等）・展示活動、普及活動等の公害を後世に伝える活動を行っている施設とした。次いで公害資料館が公害を伝えるためには被害者の視点だけではなく、加害者側も含む様々な視点で公害を捉えることが求められた。そしてそのためには公害資料館が公害当事者と信頼関係を構築することが重要であることが分かった。しかし、公害資料館の公害当事者との関係性は明らかになっていなかった。

本研究では公害資料館と公害当事者との関係について現状を調査した。そして公害当事者との関係性を分析することで、公害資料館においてより良い公害当事者との信頼関係の構築方法を提案し、公害資料館の活動の発展に資することを目的とした。

文献調査、Web 調査、質問紙調査を実施した。文献調査では公害と公害資料館に関する先行研究を調査した。Web 調査、質問紙調査ではアーカイブズ機能（資料の収集・整理・保存等）、展示活動、普及活動の現状を明らかにした。研究対象は公害資料館ネットワークに所属し、資料を収蔵している施設 18 館とした。

その結果、公害資料館と協力関係にある公害当事者には主に公害反対住民運動・被害者支援団体関係者、専門家・研究者、行政機関関係者、学校関係者が多かった。しかしその他の公害当事者と公害資料館は協力関係を築いていないと言えなかった。加えて公害反対住民運動・被害者支援団体関係者、専門家・研究者以外の公害当事者からは、それぞれの公害当事者の視点の公害についての情報は引き出せていないように思われた。

公害資料館は公害を伝えようとしている公害当事者や積極的に公害を学ぶ公害当事者と関係を築いていた。そのため、公害資料館は現在公害に関わっていない公害当事者に対して、公害を伝えることや学ぶことの意義を伝えていく活動が必要であると考えた。加えて公害について学ぶだけに留まるのではなく、公害当事者が公害を伝える機会を積極的に設け、情報を発信していくことが期待された。

(指導教員 白井哲哉)